

# 北海道十勝郡浦幌町に分布する根室層群川流布累層中から産出した上部白亜系マーストリヒチアン階最上部のアンモナイト類と白亜紀/古第三紀境界の大量絶滅

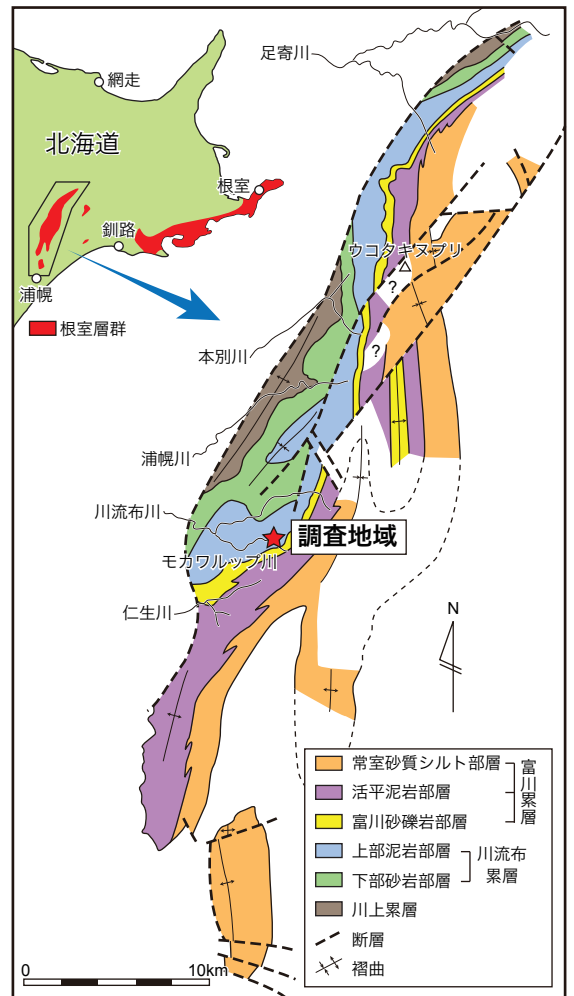
栗原憲一（三笠市立博物館）

約 6,600 万年の白亜紀/古第三紀境界 (K/Pg 境界) は、白亜紀最大の生物の絶滅事件が起こった時期である。恐竜（鳥類を除く）やアンモナイト類が絶滅し、海洋プランクトンの浮遊性有孔虫、石灰質ナノプランクトンや浅海に住む動物の大多数の種が絶滅した。その規模は、属レベルで 50% にも及ぶ (Russell, 1974)。そして、この絶滅は、直径約 10km の小天体が地球表面に衝突したことによって引き起こされたと考えられている (Schulte et al., 2010)。

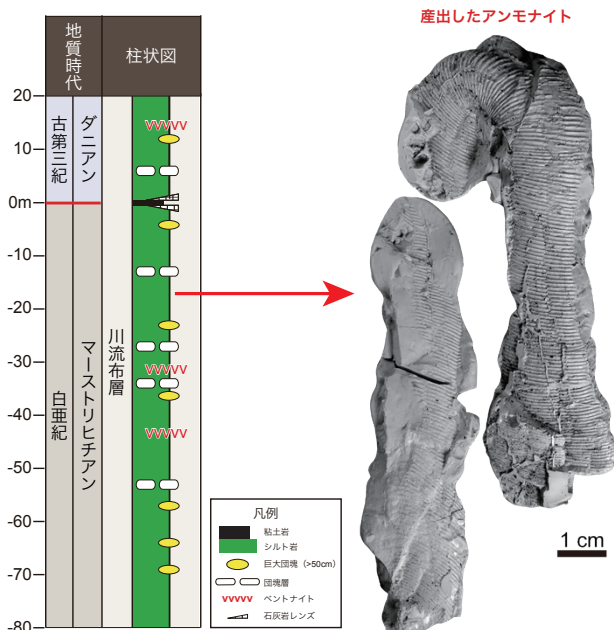
北海道十勝郡浦幌町（白糠丘陵地域）には、白亜紀から古第三紀の時代にかけて海の底に堆積した地層（川流布累層）が連続的に分布し、国内で唯一、白亜紀末の大量絶滅が起こった時代の地層があることで知られている。

当時、この地層が堆積した場所は、隕石の衝突したユカタン半島付近からは約 10,000km 離れた場所であったにもかかわらず、海洋プランクトンや陸上の植物などに大きな影響が及んでいたことが分かっている。しかし、これまでアンモナイトなどの大型の生物群集は産出が報告されておらず、その影響の詳細は不明のままだった。2012 年 8 月、この白亜紀末の大量絶滅があった地層の直下（約 15 m 下位：約 6,700 万年前）から、アンモナイト化石が発見された。

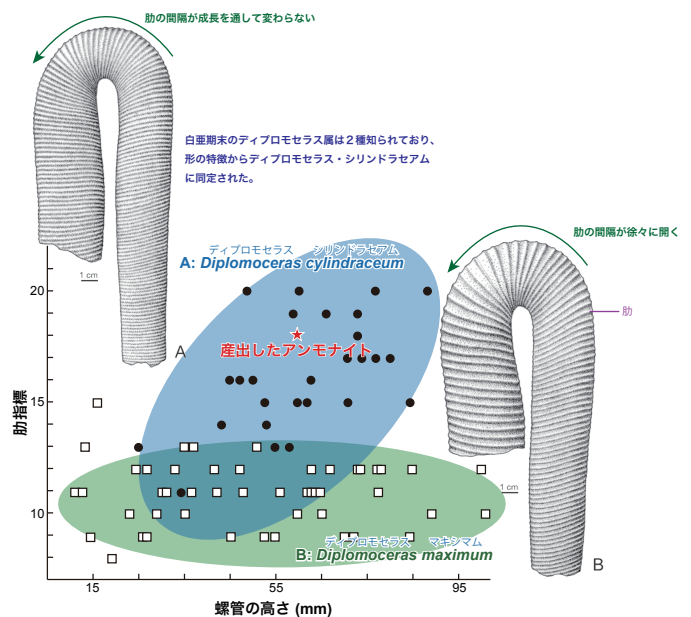
本研究では、このアンモナイト類に関する古生物学的調査を行った。その結果、このアンモナイト類はディプロモセラス・シリンドラセウム (*Diplomoceras sylindraceum*) に同定された。本種は世界各地で産出し、白亜紀末の隕石衝突によって絶滅した最後のアンモナイトの 1 つであることが知られており、同様に日本でも最後のアンモナイトだった可能性が考えられる。



調査地域



産出したアンモナイト



浦幌町に分布する白亜紀末の地層から発見されたアンモナイト

参考文献

Russell, D. A., 1974. Reptilian diversity at the Cretaceous-Tertiary transition in North America. *Geological Association of Canada, Special Paper* 13: 119-136.  
Schulte P., Alegret, L., Arenillas, I. et al., 2010. The Chicxulub asteroid impact and mass extinction at the Cretaceous-Paleogene boundary. *Science* 327: 1214-1218.